

## 第5回

### 資料1

- ・ 検討委員会設置要綱 . . . 1
- ・ 検討委員会委員名簿 . . . 2
- ・ 主な検討事項 . . . 3
- ・ 第4回検討委員会の主な意見 . . . 4

# 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会設置要綱

## (設置)

第1条 中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討するため、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

## (所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項について検討する。

- (1) 県立高校の教育の充実に関すること。
- (2) 普通科や職業科などの各学科のあり方に関すること。
- (3) 令和2年度新高校開校に係る評価に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、県立高校のあり方に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、委員16名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者のうちから、教育長が委嘱する。

## (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。

3 委員長は、会議を進行する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある時は、その職務を代理する。

## (会議)

第5条 委員会の会議は、教育長が招集し、委員長が議長となる。

## (委員の任期)

第6条 委員の任期は、令和5年3月31日までとする。

## (アドバイザー)

第7条 専門的立場からの意見を聴くため、委員会にアドバイザー若干名を置くことができる。

2 アドバイザーは、学識経験者のうちから、教育長が委嘱する。

3 アドバイザーは、教育長の要請に応じて委員会に出席するほか、委員会の所掌事務に関する事項に対して助言を行うものとする。

## (幹事)

第8条 委員会に幹事を置く。

2 幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから、教育長が任命する。

3 幹事は、委員会の事務を処理する。

## (事務局)

第9条 委員会の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

## (細則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

## 附則

この要綱は、令和3年8月31日から施行する。

## 附則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

# 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会名簿

(令和4年11月11日現在)

(委員16名、敬称略)

役職	氏名	委員の所属等
委員長	金岡 克己	(公社)富山県教育会 会長 (学)富山国際学園 理事長
副委員長	牧田 和樹	富山経済同友会 代表幹事 (一社)全国高等学校PTA連合会 相談役
委員	伊東潤一郎	アイティオ(株) 代表取締役社長
委員	稲田 裕彦	救急薬品工業(株) 代表取締役社長
委員	尾畑 納子	富山市教育委員会 教育委員
委員	河上めぐみ	(有)土遊野 代表取締役
委員	近藤 智久	高岡市教育委員会 教育長
委員	品川祐一郎	トヨタモビリティ富山(株) 代表取締役社長
委員	白江 勉	砺波市教育委員会 教育長
委員	白江日呂雄	富山県中学校長会 会長
委員	鈴木真由美	(大)富山県立大学 キャリアセンター所長 富山県立大学工学部機械システム工学科 教授
委員	須田 英克	富山県私立中学高等学校協会 会長
委員	能作 千春	(株)能作 専務取締役
委員	本江 孝一	富山県高等学校長協会 会長
委員	松山 朋朗	富山県高等学校PTA連合会 会長
委員	本島 直美	富山県PTA連合会 参与
アドバイザー	大島 まり	東京大学大学院情報学環/生産技術研究所 教授
アドバイザー	耳塚 寛明	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 特任教授

## 魅力と活力ある県立高校のあり方に係る主な検討事項

中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討する。

### 《検討事項》

#### 1 将来展望に立った県立高校のあり方

- ・時代のニーズに即し、将来展望に立った県立高校のあり方 ← 第1回

#### 2 高校教育充実のための方策

- ・職業系専門学科の現状と今後のあり方 ← 第2回
  - ・普通系学科の現状と今後のあり方
  - ・総合学科の現状と今後のあり方
  - ・様々なタイプの学校・学科のあり方
- ← 第3回
- ・定時制、通信制のあり方等 ← 第4回

#### 3 令和2年度新高校開校に係る評価

- ・新高校の状況報告等
- ・新高校在籍生徒等に対するアンケート調査結果について等

#### 4 その他、県立高校のあり方に関すること

- ・県立高校のあり方に関するアンケート調査結果について等 ← 今回(第5回)
- ・その他

## 第4回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会における主な意見

- 1 日 時 令和4年6月24日（金） 午前10時～正午
- 2 場 所 富山県民会館401号室
- 3 議 題 定時制・通信制高校の現状と今後のあり方について
- 4 主な意見

### ○定時制・通信制高校の現状と今後のあり方について

- ・働いていくためにどうしなければいけないかという力をつけていく仕組みを考えて、学校のあり方を検討していくのがいいのではないかと。
- ・点数で生徒を計る以外のスケールで自分を見る、もしくは見てくれる先生や社会の関わりがあるという点では、とても大事なこれから必要な学びの場だと感じた。
- ・定時制通信制の方向や分析など、交流の機会や学びの機会もあって、一人一人の子どもにとってどういった教育がいいのかということを考えていかなければいけない。
- ・これからの時代のニーズに即した将来展望に立った定時制通信制の位置付けについては、その学校でどのような学びをするのかしっかりと定めておかなければいけない。定時制通信制として、他部との違いはどこにあるのかという色付けを濃くして、具現化していくことは大切なことである。
- ・親にとっては定時制通信制の制度があるということは希望でもあり、子どもにとっては自分に合った環境で再度勉強するチャンスがもらえるということで、将来自立できる子どもに育つ環境があるということはとてもいいことだと思う。
- ・時と場所を選ばなくても学べるという環境を提供できる一つの土台とノウハウの塊だと思うので、定時制通信制の制度をもう少しいろいろな高校などに拡張することを検討していただきたい。
- ・小学校・中学校・高校という流れの他に、いつでも学び直しもできる自分に合った学びの場が保たれているということが、これからの時代においても必要なシステムなのではないかと強く感じている。
- ・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなど、様々な形で支援をしていただき、子どもたちが生き生きとやっている。生徒が通うだけでなく、生徒会の中心になったり、部活動で成績を残したりしており、今後とも子どもたちが社会人として自立できるような部分を押さえていただきたい。
- ・多様性が求められる世の中で、今後に必要な要素が詰まっているような明るい印象を受けた。今受けたような印象を親世代に伝えていく、魅力を発信するというのはとても重要だと思っている。子どもたちの受け皿というものを知る、知らないで大きく変わってくるのではないかと考えた。

- ・高校生の今の状況と枠組みとがミスマッチしている。教育の大前提は、子どもたちが学び、社会に出て生きていくことができることにあると思う。
- ・時代とともに子ども達の環境が変わってきているので、こういう制度を持続させることが必要ではないかと思う。また、これを受け止める様々な先生が必要なので、教育者を教育する仕組みもしっかり考えていかなければいけない。
- ・広域通信制高校の話があったが、広い意味での官民連携、新しい学びの場の提供という視点で、良いものは取り入れる、協調するところは協調する、切磋琢磨するところは切磋琢磨するということで進めていくべきではないかと思う。
- ・リカレント教育とか社会人に対するビジネススクールといった視点もこの際、教育県富山としての新しい地域成長戦略として検討することも可能ではないか。
- ・色々な事情で学校に行けない子どもは、学校に行きたいという気持ちをおそらく持っているはずなので、色々な子どもたちの所属機関を確保するのは重要で、その意味でも定時制通信制がしっかりと機能しているという、今の状況は良いことだ。
- ・定時制通信制をポジティブにとらえて、通信制というものを貪欲にプラスに捉えた学生がもっと出てくる可能性もあるので、是非リードしていただきたい。
- ・インターンシップとか地元或いは自治体、企業といった触れ合いのようなものを増やしていき、コミュニケーション能力を特に上げていただきたい。成功体験を定時制通信制の学びの中で増やしていければ、社会に出て行く時に、自分なりのやり方で社会に巣立っていけるような生徒が増えていくと思う。
- ・正規の就職をしている人はわずかだが、アルバイトをしている生徒もいる。これはインターンシップをやっているのと同じで、それが社会勉強になり、また最後どういいう仕事に就いていくかということを考えてとても大事な人間形成の場であるのではないかと考えている。
- ・募集定員に対して在籍者数が少ない学科もあるわけだが、学びたい学科に生徒が入ってきているという実態を考えると、ぜひそうした受け入れは今後も続けていただきたい。
- ・定時制通信制にどういう生徒が通っているか現状がほとんど理解されてない。実態はどんどん変わってきている。実態を踏まえた上で、今の定時制通信制のようなこれまでの全日制以外の枠組みが必要である。
- ・多様性に応えるためには、通信制はまさにそうなっていると思うが、定時制においても、座学も必要ではあるが、もっとITの力を活用していくということできなければ多様性に対応できない。

(文責 県立学校課)